



夢中! 熱中!
ふくしびと

だから続けたい この仕事

福祉の現場で働く人たちの熱い想い・メッセージを伝えるコーナーです。京都府内で“熱い福祉”を“夢中”で実践している方々にスポットをあてて、元氣や楽しさ、やりがいを“生”の声でお届けします。

松平 樹里さん まつひら じゅり

施設名 社会福祉法人 大樹会 やまもも保育園
〒625-0035
京都府舞鶴市字溝尻1106番地
HP/URL : http://daijukai.jp
TEL.0773-62-0524 FAX.0773-77-5433
職種 : 保育士 経験年数 : 3年7ヶ月
★好きな言葉 : 前向き
★夢中になっている事 : ソフトバレーボール

子どもと共に学び、成長していける毎日を

★仕事を始めたきっかけは？
私が幼稚園児だった頃、担任の先生が大好きで憧れの気持ちから、ずっと保育園の仕事に就きたいと思っていました。今の保育園は学生時代の実習先で、木で造られた園舎のぬくもりや笑顔で過ごす子どもたちの姿を見て「ここで働きたい！」と思いました。

★仕事の内容とやりがいは？
「おはよう」から一日が始まり、子どもと一緒に身体を動かしたり、時には集中して何かに取り組んだり、そんな子ども目線で一緒に学び、成長していくのが今の私の仕事だと思っています。

★今後の目標抱負は？
近場へ出かけたり、体を動かすことが好きなので、バレーの試合に出たり、冬はスノーボードをしたりして過ごしています。



居場所とつながり
～住民と考え、生み出す舞台～

長岡京市社会福祉協議会



02

私たちは地域の中で、様々な人・団体と関係の糸をつむぎあいながら暮らしています。このシリーズでは、「つむぐ」をテーマに住み慣れた地域での暮らしや生活を育むために活動されているの方々を取り上げ、活動に対する想いやエピソードを交えながら、取組を紹介していきます。

長岡京市社協（以下、市社協）は、地域福祉推進の考え方として「既にある社会資源や人をつなぐ」だけでなく「地域住民と一緒に考えて生み出したものをつなぐ」ことを意識している。地域福祉係の奥田係長が表情を輝かせながら語る。今回は、その代表的な取り組みのひとつである「てるてる農園」取材した。

てるてる農園の誕生

市社協では、平成26年にとある縁で、広大な土地を借り上げる事ができた。その場所を福祉サービスの利用者や引きこ

もりの方が集う居場所のひとつとして使用できないかと考え、「てるてる農園」が誕生し、今年で3年目を迎えた。

福祉サービスの利用者が地域支援の担い手に

「てるてる農園」は、福祉サービスを利用されている方や引きこもりの方が農園活動に参加し、地域の住民やボランティア、子どもたちと交流を深め、地域の一員としての自負や自信を取り戻すきっかけとなり、自身が輝ける居場所の一つとして存在している。

また、そこで収穫された野菜は、生活に困窮している方や一人親世帯等への支援に活用されており、活動を通じて様々な団体や事業とつながっている。農園に参加されている利用者は地域支援の担い手となり、そのことにやりがいや意欲を感じている。

笑顔が報酬

現在、農園の現場リーダーは山元さん。作物の育成状況の管



理や資機材の調整など、多様な役割を担っている。また、運営面は実行委員で役割が集中しない、リーダーに役割が集中しないように配慮している。取材日は雨であったが、山元さんから指示された取材先は農園。「雨が降ろうが畑へ行く」と現場リーダーとしての責任感の強さを感じた。

てるてる農園と社協のこれから

市社協の奥田係長が「その人の得意分野についてお話を聞くと、自然な姿を見ることが出来る。だからこそ、一人ひとりが輝ける場所を作れると、こちらにも刺激を受け、何より楽しいです。」と呟かれた。今回取材した「てるてる農園」は、参加者にとっては気軽に集まれる地域の居場所のひとつとなり、地域の方や子どもたち、ボランティアなど、様々な方と関わり合うことで、自立への一歩を踏み出す場となっている。そんな「舞台」を地域の方と社協職員が共に汗をかき、笑い合い、時には悩みながら生み出していく。市社協と住民が共に紡いでいく未来は、「一人ひとりが大切にされ、人と地域がつながる福祉のまちづくり」そのものである。

そんな山元さんの表情が一瞬和らいだのは、農作業の楽しいことは何かと質問した時だ。「愛情を込めて育てた農作物を皆さんに提供した時、とても喜